



青武台だより

令和7年
3月14日発行

No.236

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Fukui College



使命は重き若人の
(校歌より)

CONTENTS

- P2 ▶ 卒業生・修了生に贈る言葉
- P4 ▶ 卒業生クラス紹介
- P9 ▶ 修了生クラス紹介
- P11 ▶ 学生の将来と進路
- P13 ▶ 活躍する仲間
- P18 ▶ 研修旅行
- P20 ▶ 校外研修
- P22 ▶ 文化体験日
- P23 ▶ ミニ・ビブリオバトル
- P24 ▶ 退職にあたって
- P26 ▶ 学校通信

Special Interview

～卒業生・修了生に贈る言葉～

卒業・修了にあたって
～未来を切り開く若き技術者たちへ～

校長 長谷川 章

春の穏やかな陽射しとともに、卒業・修了を迎えられた皆さんに心よりお祝いを申し上げます。皆さんのこれまでの努力と研鑽を心から讃えます。中学校を卒業したばかりの若い心を持つ皆さんを本校に迎え、5年または7年間にわたり本校で幅広い専門知識や技術を学び、実践的な能力と論理的思考力を身につけられたことと思います。この時間は、皆さんのこれまでの人生の中で、最も大きな成長を遂げた貴重な時間です。今後、皆さんには、本校で学んだ事柄を最大限に活かして、未来社会を創造する技術者として大いに活躍されることを心から願っております。

近年、世界は想像を超えるスピードで変化し続けています。AIやIoT、ビッグデータといった新たなテクノロジーが社会の在り方を大きく変えようとしており、私たち人類は、かつて経験したことのない予測不能な時代を迎えようとしています。また、人口減少、少子高齢化に向けた課題の解決、脱炭素社会実現に向けた取り組み、社会インフラの維持など、新しい技術開発や今までにないサービスの開発など、高専卒業生が果たさなければならない課題は山積しています。このような時代にこそ、高専生の持つ豊かな発想力による課題解決能力の真価を発揮することができます。大きな変革を迎える社会において、皆さんには「変化を恐れず、自ら学び続ける姿勢」を大切にしてほしいと願っています。社会は時に厳しく、正解のない課題を突きつけてくることもあるでしょう。しかし、そこで諦めずに、自ら考え、行動し、そして周りの人と協力しながら、

道、道を切り拓いていってください。

校長室には福井大学教授で書道家の杉本長雲先生による「鐵心肝(てっしんかん)」の書が掲げられております。この言葉は、鉄のように堅く変わらない心、ゆるぎない心、強い心を表します。変化の激しい時代であるからこそ、皆さんは、困難に立ち向かう勇気と忍耐力、そして何事にも動じない強靱な心を持つことが肝要です。学生生活では、様々な困難に直面しながらも、一つ一つ乗り越え、強い心を育まれてきたことと思います。社会に出れば、初めて経験する大きな変化や困難が待ち受けています。しかし、皆さんが本校で培ってきた「鐵心肝」の精神を持てば、どんな困難にも立ち向かっていくことができるはずです。どうかこの言葉を胸に、自分の夢や目標に向かって、たくましく歩んでいってほしいと願っています。

卒業・修了生の皆さんが社会の一員として輝く未来に羽ばたくためには、高い倫理観に基づく行動規範を持ち続けることが大切です。また、日常的な礼儀正しい挨拶、周りへの感謝の気持ちや気遣いの一言を常に心がけて頂きたいと思います。これまで学業や寮生活、課外活動などを通じて培った人間力を基にチームの一員として、諸先輩や同僚らとともに失敗を恐れず、自らの夢に向かって果敢に挑戦して下さい。

最後に、これまで学生諸君の成長を温かく見守り、ご指導ご支援頂いた保護者の皆様、関係各位に対して心から感謝を申し上げますと共に、卒業生・修了生に輝かしい未来が開けますよう益々のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Special Interview

～卒業生・修了生に贈る言葉～



教育後援会会長 海道 洋子

感動いっぱいいのちを生きる

卒業並びに修了を迎える本科及び専攻科の皆さんへ教育後援会を代表して心からお祝いを申し上げます。

皆さんが15歳で高専に入学され、本科5年間、専攻科は7年間と長期にわたりよく勉学に精進されました。無事学業を修められたのは、教職員の皆さま、そして家族の皆さまのご教導とご支援やご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。

この度、進学や就職される皆さんの人生の門出に一言お伝えたいと思います。

皆さんは新型コロナウイルスのパンデミックの影響で自粛生活が続き、SNSの世界に支配されていませんか？1日24時間の内、皆さんが毎日携帯電話やパソコンと繋がっている時間はどのくらいでしょうか？若いからと無理して睡眠不足や運動不足そして偏った食生活を過ごしていませんか？今は人生100年時代を迎えています、20歳や22歳を過ぎたばかりの大人の皆さんには、これからの長い人生を精神的にも身体的にも健やかな人生を重ねてほしいと願っています。これまでの生活習慣を中々変えることは出来ませんが、これから迎える新しい環境ではより皆さんの人との出逢いがあります。その出逢いを大切に是非、変えられるよう少しずつ行動してみてください。

実は、私事です、20年前に生死を覚悟する病気になる手術をして入院治療をし、その後、ある薬を生薬服用し続けなければなりません。その人生で一番つらく苦しかった時期に知人から書家である相田みつさんの『生きていてよかった』という書籍を贈られ、どん底から救われて、その経験で人生観が変わりました。それは何かという命あることが何より一番大事、そしてその書籍に書かれていたように日々感動・感激し、感謝して生きるということでした。

終わりに皆さんへ贈る言葉は、その書籍のひとつの言葉

【一生燃焼 一生感動 一生不悟】

人間が生きるといことは、毎日何かに感動・感激する。

今日新たな発見をして感動する。一生悟れなくてもいいから

感動いっぱい感激いっぱいのいのちを生きる。



進和会会長 野嶋 祐記

日本の未来に期待

卒業並びに修了を迎える本科及び専攻科の皆様、おめでとうございます。進和会を代表して心からお祝い申し上げます。4月からは、新たなステージで皆さんの更なる活躍を期待いたします。

今日は日本の未来を担っていく皆さんに期待することをお伝えできればと思います。昨年暮れに内閣府から豊かさの目安となる日本の2023年の1人当たりの名目国内総生産(GDP)が初めて韓国に抜かれ、OECD加盟38カ国中22位に後退したと発表されました。2000年にはOECD加盟中2位でしたが、2012年をピークに下がっていき今回は韓国に抜かれ、来年には台湾にも抜かれる見通しとの報道もあるようです。

この要因の一つ目が、高齢化だということです。日本は65歳以上の割合が29.3%で世界最高です。高齢者が多く、働いていない人が多いということになります。当面は日本の働き手がどんどん減っていきます。日本の“稼ぐ力”が低くなるということが考えられます。二つ目が、円安だと言われています。また、国際比較はドル建てで行われるため為替の変動が大きく影響しています。

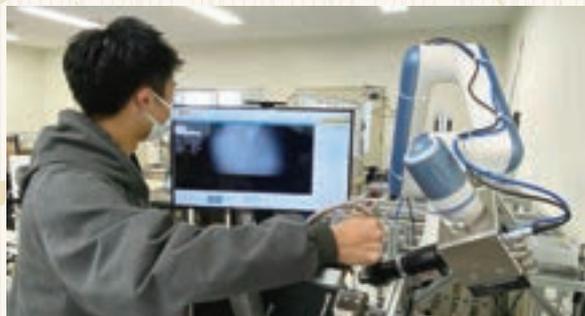
日本の1人当たりの名目GDPが低い理由として、日本の労働生産性の低さも指摘されています。日本の労働者1人当たりの労働生産性は、1年間約877万円で、OECD加盟38カ国中32位と、1970年以降最も低くなっているとのこと。アメリカは約1608万円、ドイツは約1306万円、韓国は約931万円とのこと。

日本の労働生産性がこんなに低いには、無駄な作業が多いのではないかと指摘されているようです。これから必要なのは「DX推進」「AI化」を駆使して更に生産性の効率化を進めることが日本としての絶対的課題と考えます。

将来各分野で活躍される若きエンジニアとして日本の未来は自分たちが切り開いていく覚悟でこれからの活躍を期待します。もし困ったことや悩んだときは皆さんの周りには卒業生8000人以上の福井高専の先輩がいるのですから安心して頑張ってください。

機械工学科

～卒業生クラス紹介～



機械工学科5年担任 **金田 直人**

分岐点

卒業式・修了式、私も福井高専でこの日を迎え、晴れ晴れとした気持ちであったことを覚えています。皆さんの高専生活はどうだったでしょうか？人それぞれ今の面持ちは違うと思いますが、4月からは技術者として、専攻科・大学での学生として、気持ち新たに人生を歩みだすことでしょうか。人生にはいくつかの目に見えないターニングポイントが存在します。これは必然であり、また避けては通ることのできない困難な状況も少なからずあります。そのような時、私自身は高専での学びが基盤となって行動していたと感じています。皆さんの高専生活は、コロナ禍であったものの(研修旅行後の学級閉鎖は流石に大変でしたね..)、中学卒業後からの5～7年間で心身が著しく成長しました。過去を振り返ることも大事ですが、社会が日々変わっていくと共に、いつくるかわからないターニングポイントに備え、1日1日を後悔のないよう前向きな気持ちで行動することを心がけると、自然とイイコトがたくさんあるかもしれません。山あり谷あり、色々な状況に応じて高専生活の経験が活かされれば幸いです。卒業・修了後は、福井高専に遊びに来て、分岐点でのお話を聞かせてください。

卒業・修了おめでとう。



機械工学科5年代表 **坂東 慎之介**

高専生活を振り返って

気がつけば、あっという間に5年が過ぎ、卒業の日が目前に迫っています。この春から、多くのクラスメイトが社会に出て働き始めるとすると、入学当初は漠然としていた未来が、少しずつ現実になってきたことを実感します。振り返ると、レポートや製図、終わりの見えない課題に追われた日々が思い出されます。締切ギリギリまで仲間と徹夜で作業したことも、一緒に悩み、助け合ったことも、今ではすべて大切な思い出です。その過程で、先輩やクラスメイト、先生方にたくさん助けていただきました。今となっては、感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

私はこれまで勉学に励むにしても、何かの運営に関わるにしても、ただ頑張るのではなく、目的や意味を考えながら取り組むことで、課題を解決する喜びを見出してきました。在校生の皆さんも、困難に直面することがあると思いますが、めげずに挑戦してください。一生懸命向き合えば必ず乗り越えられます。最後になりますが、機械工学科5年の皆様、そして先輩や後輩、先生方、本当にお世話になりました。充実した高専生活を送れたことに心から感謝しています。ありがとうございました。



電気電子工学科

～卒業生クラス紹介～



電気電子工学科5年担任 **西城 理志**

卒業生に贈る言葉

5年生、専攻科生の皆様、卒業おめでとうございます。就職する人は、小学校からの長い学びの時間を経て、遂に社会に独り立ちすることとなります。進学する人は、まだ学びが続きますが、もう自身で十分に道を決められることでしょう。

これまで皆さんは、教えられたことをどれだけきっちり行えるか、という尺度で能力を評価されてきました。いわば受動的な状態が評価されてきたとも言えます。ですが、社会に出るとこれは場合によっては異なります。社会のルールや文化の中で、規律を持って行動することは非常に重要です。しかし一方で、すべて受け身では新たな価値は生み出せません。皆さんは将来新たな価値を創出する能動性を囑望されています。実際にそのための基礎的な能力はもう身につくつあります。ですから是非これからは、「自分自身が少しでもいいから新たな価値を生み出すのだ」という意思を育てて欲しいです。なお、これは私生活でも同じです。自分で稼いだお金で、どんどん新たなことに挑戦してみてください。人生がきっと楽しくなります。

最後に、もしよかったら20年間以上に及び庇護してくれた保護者への感謝も伝えてください。これまでは毎日当たり前のように一緒にいたが、家を出るとなんと年に数日くらいしか会わなくなります。

電気電子工学科5年代表 **高山 遼**

図書館のすゝめ

世の中にはあまりにも多くの娯楽が溢れているが、本ほどよくできた娯楽は見たことが無い。言葉、知識、表現、思想を学ぶにはちょうどいいし、自分のペースで好きなように読み進み、読み返せるのが良い。小説なんかは文字から頭に情景を作り出すと時間も忘れて没頭してしまう。専門書も、ささいな興味から新しい知識を取り入れて、自分の扉を開くのに向いている。それが本だ。このよくできた娯楽を無料で楽しみ放題だというから図書館という施設は最高で、特に我々高専生は図書館の利用にあたって実はかなりツイている。ここの図書館は一般書架から書庫(出入り自由、すごく楽しい!)まで、実に多くの本を擁するほか、欲しい本はリクエストを出すで一週間ほどで追加してもらえる。イベントも積極的に開催されており、本を通して人と交流するのも楽しい。

そんなわけでこの学校の図書館はすごく面白い。もしこの文を読んでいる高専生がいたら、ぜひ図書館に足を運んでみてほしい。何か借りなくても、ぶらぶら歩いて立ち読みするだけでも面白いはずだ。これはある先生の受け売りだが、「図書館と教員は使えよう」なので、せっかく入学した高専を楽しみつくそう。



電子情報工学科

～卒業生クラス紹介～



電子情報工学科5年担任 **西 仁司**

「工学」を学んだ皆さんへ

5EIのみなさん、卒業おめでとう。皆さんが本校で過ごした5年間は、新型コロナ感染拡大にともなって、社会全体が大きく変革した時間でもありました。遠隔会議が一般化して、移動する時間が不要となりました。キャッシュレスサービスの拡大により、インターネットでの買い物便利になり、小銭を持ち歩かなくてもよくなりました。生成系AIの実用化は、ルーチンワークから人間を解き放とうとしています。そしてこれらは、「工学」が目指す生産性向上を実現してきたといえるかもしれません。いわゆる「コスバ」「タイパ」がよくなったと感ずるかもしれません。

しかし、「コスバ」「タイパ」を人生すべてに当てはめることは危険です。「コスバ」「タイパ」を意識した人間関係は、なんだかさみしいですね。また、その時は無駄だと思えたことが後になって役立つなんてこともよくあります。

自分にとって本当に大事なものは何かをよく考え、「コスバ」「タイパ」でははかれない「もの」や「出会い」を大切にしてください。

それらはきっと、皆さんを豊かにしてくれるものです。

それらはきっと、皆さんに喜びをもたらすものです。

みなさんの今後の益々のご活躍を心より祈念いたします。



電子情報工学科5年代表 **山口 悠有**

5年間を振り返って

僕たちが福井高専に入学した2021年はコロナ禍真っ只中でした。入学したてで右も左もわからない中さらに追い討ちをするかのようで、当時は「これからどうなってしまうんだ」という不安を抱えながら日々過ごしていたことを覚えています。そんな激流の年が明け、高専にも慣れてきたと思えばあっという間に5年の月日が経ち、卒業間近となってしまいました。

今思うと、高専では本当に色々なことを学び、経験してきました。特に、5年の高専祭で露店長となってクラスの露店を出した時は、人が足りずに営業停止になるかとも思いましたが、なんとか乗り越えることができました。もっと計画性を持つべきであったと後悔しています。従業員不足で嘆いていた高専祭前日には、クラスメイトに協力を仰いでいましたが、反応はイマイチでどうしようかと悩んでいました。しかし、当日になると、たくさんのクラスメイトが協力しに来てくれており、その時僕は人の優しさに感動しました。この経験を踏まえ、僕が言いたいことは、人との繋がりを大切にしてほしいということです。クラスメイトや先生、家族、友人、よく行くコンビニの店員さんとの繋がりを大切にしましょう！以上です！5年間ありがとうございました！



物質工学科

～卒業生クラス紹介～



物質工学科5年担任 **松野 敏英**

卒業生に贈る言葉

5Cのみなさん、卒業おめでとう。みなさんの笑顔は素敵です。物質工学科でみなさんの担任として3年生から5年生までの3年間を一緒に過ごしたことを嬉しく思っています。みなさんは4月からの新しい就職や進学が楽しみですか？心配ですか？大丈夫です。あなたが選んだ道です。自分を信じて一生懸命に努力を重ねてください。慌てて急ぐ必要はありません。何事にも労を惜しまず、一步一步進むと、結果は後から付いてきます。種が芽を出し、幹を太らせ、枝を伸ばし、葉を広げ、花を咲かせ、実を付け、実が熟すには、時間が必要です。あなたが頑張るその姿を周りの人は見てくれています。人は決して一人では生きていけません。私たちは互いに誰かに支えられて生きています。家族、友達、同僚、周りの人たちに対して、大切に思う気持ち、感謝する心、をいつも忘れないでください。みなさんが進む未来には必ず困難があります。困難が無い人生はありません。困難なときは家族や同僚そして私たち福井高専の教員を思い出して相談してほしいです。私はみなさんを応援しています。素敵な笑顔と感謝の心を大切に、あなたの未来をつくってください。いつの日か、成長した姿を見せに母校に立ち寄ってくれると嬉しいです。未来のみなさんに会える日を楽しみに待っています。卒業おめでとう。



物質工学科5年代表 **三村 昌也**

福井高専は「教育」「共育」「協育」の場

私たちの高専入学はコロナ禍で始まりました。1年生前期の授業は自宅で受講するオンライン授業がほとんどでした。三密を避け、自由にクラスの友人に会えず、孤独で不安なスタートを切りました。中学生活とは大きく異なる学校環境に直面して、これからの5年間の授業についていけるか心配だったことを覚えています。

1年生後期からようやく対面での授業ができるようになり、クラスの友人とも親しく交流できるようになりました。5年間の在学中で「化学」の専門な知識と技術を学ぶことができました。5年生では指導教員のもと卒業研究に取り組みました。4年生の夏休みには1週間のインターンシップに参加しました。インターンシップは自分が関心を持つ企業で就業体験に取り組む貴重な機会です。仕事に対する自分の適性や興味を知り、仕事の内容を理解し、業界の今を知ることができました。この経験は私の就職活動にとっても役に立ちました。

福井高専は「教育」「共育」「協育」の場であると考えます。先生から指導をいただき、仲間と共にお互いを認めて協力しながら学びを深めることができる成長の場です。私は5年間の高専生活でかけがえのない人間関係を得ることができました。

福井高専を卒業し、これから私たちはそれぞれの道に進んでいきます。先生方や友人との出会いに感謝いたします。ありがとうございました。

環境都市工学科



～卒業生クラス紹介～

環境都市工学科5年担任 **樋口 直也**

一歩前へ進む君たちへ

ご卒業おめでとうございます。

担任となってからのこの3年間は毎日と言っていいほど顔を合わせ本当に多くのことを話しました。この3年間一日も君たちのことを考えなかった日はなかったと思います。もう考えなくてもいいと思うと「ホッ」とする気持ちがある一方寂しい気持ちで一杯です。

高専を卒業し、企業や大学など次のステージへ進む君たちへ最後にどのような言葉を贈ろうか悩みましたが、社会人の先輩としては「自分の足で立ち、前を向き、前へ進んで行ってください。」という言葉を送りたいと思います。そして、担任としては「何事に対しても努力している者であれば、もし難しい問題に直面したとしても周りの人たちが必ず手を貸してくれます。」という言葉を送りたいと思います。少なくとも、私は担任であった者としていつまでも君たちに手を差し伸べるつもりです。

この5年間の高専生活で経験してきたことを糧に自分たちの道を切り拓いて行ってください。応援しています。たまには、学校に元気な姿を見せてくださいね。



環境都市工学科5年代表 **室田 晃佑**

「第二の家族」

いつの間にか、卒業の時期を迎えていました。入学して間もなくオンライン授業と分散登校が始まり、当時は卒業までの5年間でとても長く感じていました。いま振り返ってみて高専生活があつという間だったのは、それだけ充実した時間を過ごせたからだだと思います。その時間をともにつくってくれた友達や先生方には、感謝しかありません。

私は寮生だったため、高専生活5年間で家族よりも友達や先生方の顔をたくさん見てきました。いつも何かを決断する時には、家族ではなく友達や先生方がいました。高専に入学して自由が増えたことで、自分自身で決断する機会や、決断するための選択肢が格段に増えました。また、この5年間で、大きな人生の分岐点をたくさん経験しました。背伸びをしてよくない選択肢を選んでしまったときは、いつも友達や先生方がサポートしてくれました。周りのサポートがあったからこそ、5年間大きなトラブルなく生活できたと思います。日常生活を共にして、これだけ私を気にかけてくれた友達や先生方は、第二の家族です。

これまでの決断が正しかったのか今はわかりませんが、次に皆さんに会ったときに間違いではなかったといえるよう、今後頑張っていきたいです。



生産システム工学専攻

～修了生クラス紹介～



生産システム工学専攻主任 青山 義弘

修了生に贈る言葉

修了おめでとうございます。皆さんは専攻科第26期生。専攻科ができて四半世紀過ぎ新たなステップに入った修了生ですね。

皆さんが歩んできた道のりは大変だったと思いますが、たくさんの課題や試験に挑みながら、多くの技術や知識を習得し、成長を遂げてきたことと思います。また、未曾有のパンデミック、コロナ禍も経験し、日々の学びを通じて培った仲間たちとの絆や、人としての深みも、これからの人生において大きな財産となったことだと思います。

専攻科での2年間は、皆さんにとって専門知識の深化だけでなく、自立した社会人としての準備期間でもあったはずです。今後、さまざまな場面でその知識と経験を活かし、社会に貢献していくことが求められます。皆さんが持っている能力と情熱は、これからの時代を切り拓く大きな力となるでしょう。

また、周囲の人々との協力やコミュニケーションも大切にしてください。一人一人の力には限りがありますが、チームの力は無限大です。助け合い、励まし合うことが大切です。

最後に、皆さんの未来が輝かしいものとなることを心から願っています。勇気と自信を持って、未来へと羽ばたいてください。



生産システム工学専攻2年代表 坂口 雅治

充実のアディショナルタイム

高専に入学して7年、気づけば小学校よりも長い期間通っていることに驚きが隠せません。自分に関しては高専に入学した理由すら曖昧な記憶になっていますが、今となれば高専にきて本当によかったなと感じています。

専攻科での2年間は少人数にはなりましたが、他学科の人たちと触れ合う機会が増え、ただでさえ個性派ぞろいだった高専生活の濃度が上がり、満腹の状態でご飯をもう一杯食べるような感覚でした。そんな日常生活でしたが、授業となるとみんなまじめで、いろいろな考え方に触れることができ、学び取れることも多く、刺激を受けながら2年間学習できました。

最後になりますが、先生方、職員の皆様、ご指導ありがとうございました。学習の面だけでなく、人間として成長できたと実感しています。高専で学んだことを次のステージで発揮して、多くの人から信頼されるような人物になれるように頑張ります。



環境システム工学専攻

～修了生クラス紹介～



環境システム工学専攻主任 **辻野 和彦**

勇気を持って挑戦を!

環境システム工学専攻のみなさん、修了おめでとうございます。専攻科の2年間は、あっという間に過ぎたのではと思いますが、どうだったでしょうか?きっと、充実した日々を過ごせたのではと思います。専攻科では、他学科出身の学生と協同する科目が多かったと思います。体育祭で各学科の色があるように、M、E、EI、C、Bには独特の色があり、学生の皆さんにもそれぞれ色があって、それが影響しあって、混ざり合って、アイデアを出し、モノづくりを行う...このような刺激的な経験は、社会で出てからも役に立つものだと思います。

トーマス・エジソンは、『失敗を恐れず挑戦すること。それが成功への最短距離です。』という言葉を残しています。専攻科で経験したことに、自信を持って欲しいです。挑戦する気持ちを忘れず、どんなときも自分の可能性を信じるのが大切です。そして、失敗を恐れずに一步を踏み出す勇気を持って下さい。今後は、社会に出たり大学院に進学したりと進路は別々ですが、どんな環境でも、福井高専の本科と専攻科で培った知識と経験を活かせば大丈夫。皆さんの未来が輝くことを願っています。応援しています!

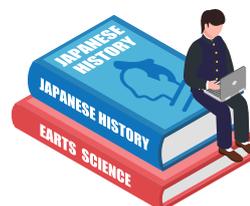
環境システム工学専攻2年代表 **矢坂 遥**

7年間、ありがとうございました

私は、より専門的な内容を学び自分の技術を高めたいと考え専攻科への進学を選択しました。専攻科は本科の時よりも自由な時間が多かったため、資格取得に向けた勉強時間を十分に確保することができ、その結果、専攻科1年生の時に一級建築士試験に合格することができました。この成果は、専攻科進学を選んだことによる大きなメリットの一つです。また、本科1年生の時からお世話になっている信頼できる先生方の元で研究に取り組むことで、多くの知見を得ることができました。

専攻科での学びや研究、そして資格取得という経験は私にとって非常に大きな財産となり、今後のキャリアにおける確かな自信につながっています。こうした充実した環境で学び、貴重な経験を得られたことに深く感謝しています。

今後は福井高専を卒業し、それぞれの道に進むこととなりますが、専攻科で得た知識や過ごした思い出を人生の支えにして、これからの生活を頑張ろうと思います。最後になりますが、多くの先生方、職員の皆様、家族、そして友人の支えがあったおかげで、充実した7年間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。次に皆さんに会ったときに間違いではなかったといえるよう、今後頑張っていきたいです。



～学生の将来と進路～

令和6年度 大学編入学試験・高専専攻科入学試験合格状況

令和7年1月25日現在

大学等	学部等	学科		機械工学科		電気電子工学科		電子情報工学科		物資工学科		環境都市工学科		合計			
		推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
北海道大学	工学部											1			1		
北見工業大学	工学部			1											1		
東北大学	工学部				1											1	
群馬大学	情報学部							1								1	
千葉大学	工学部			1			2					1			4		
東京科学大学	工学部				1											1	
電気通信大学	情報理工学域				1											1	
横浜国立大学	都市科学部											1			1		
長岡技術科学大学	工学部	1	1							4	1	1	1		6	1	2
金沢大学	理工学域	2		1											3		
福井大学	工学部	2	2	1				3				1			4	5	
信州大学	工学部			1								1			2		
信州大学	繊維学部		1													1	
岐阜大学	工学部											1	1		1	1	
豊橋技術科学大学	工学部	2					2			4	1	2	1	1	10	2	1
和歌山大学	システム工学部												1			1	
富山県立大学	工学部						1								1		
兵庫県立大学	工学部				1											1	
福井高専専攻科	生産システム工学専攻	6	1	2			4	1	2						12	1	3
	環境システム工学専攻									1		1	5		2	5	
計		13	5	7	4		9	1	6	9	2	9	7	4	47	10	19

令和6年度 大学院入学試験合格状況

令和7年1月25日現在

大学院	専攻	生産システム工学専攻		環境システム工学専攻		合計			
		推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
		男	女	男	女	男	女	男	女
金沢大学大学院	自然科学研究科	1				1			
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科			1		1			
福井大学大学院	工学研究科				2			2	
豊橋技術科学大学大学院	工学研究科			1		1			
計		1		2	2	3	2		



Special Interview

～活躍する仲間～

電子情報工学科4年 大瀬 怜牟音

プロコンに参加して

昨年、私たちは第35回全国高等専門学校プログラミングコンテストの自由部門(本選)に参加しました。

私たちはプロコンに向けて「エモアンプ」というVTuberに関連したソフトウェアを作成しました。この「エモアンプ」は従来の表情のトラッキングに加えて、感情推定等によって独自の表情を可能にするものです。

プロコンには予選と本選があり、予選は6月に書類審査で行われました。本選は奈良で10月19日と20日の2日間に行われました。そして本選に向けてプログラムの作成や修正・改良を進めていきました。しかし、本選の直前まで問題が山積しており、それらを解決するために直前まで作業をして、できる限りの問題解決を行いました。

本選は審査だけでなくデモンストレーションがあり、ブースで企業や一般の方、時には他高専のプロコンに参加している学生に対してソフトウェアの説明や実演を行いました。デモンストレーションは朝から夕方まで長時間行い、たくさんの人に聞いていただきました。本選の結果としては特に賞が得られたわけではないですが、様々なことが学べて充実した2日間になりました。



環境都市工学科2年 玉村 真優

全国高等専門学校 デザインコンペティションに参加して

私たちは11月2日、3日に開催された「デザコン2024 in 阿南」の構造デザイン部門に参加しました。今回の内容としては、支間長900mmの橋の模型をケント紙で製作し、40kgの静的荷重と衝撃荷重に耐えるというものでした。福井高専からはアーチ橋とトラス橋の2作品を出展しました。

先輩方が5年生に進級し、私たち1～3年生の新体制へと部活が変化しました。

橋の模型を製作するうえで多くの困難に直面し、ものを生み出す難しさと部活を運営する大変さを学び、先輩方のありがたみを実感しました。

当日、アーチ橋は載荷を始めてしばらくして横に倒れ、トラス橋は静的荷重40kgクリアのあと一歩のところで壊れ、無念の結果となりました。載荷実験を繰り返すほど欠点が見えてきて、大会に出展した時点では改善が不十分であったことを改めて実感しました。他高専のプレゼンテーションや製作時のアドバイスをいただき、大いに学びのある大会となりました。

とても悔しい思いをしましたが、この経験を来年の糧として頑張っていきたいです。協力してくれた皆さん、本当にありがとうございました。



Special Interview

～活躍する仲間～

電気電子工学科3年 常川 翔太

第35回全国高等学校 アマチュア無線コンテストに参加して

昨年7月、私達は第35回全国高等学校アマチュア無線コンテストに参加しました。この大会では全国の無線局と一定時間内にできるだけ多くの電話交信、モールス通信をして点数を競います。電話交信はSSBと呼ばれ、肉声で交信するのにに対し、モールス通信はCWと呼ばれ、電鍵を使ってモールス符号を伝えます。

このコンテストには免許をとって間もない1年生もSSBのオペレーター(交信する人)として参加していましたが、日頃からの交信活動や先輩達のサポートもあって、期待以上に活躍してくれました。一方、CWは私と2年生1名とで担当しました。CWは高得点が得られる交信ですが、モールス符号の聞き取りは難しいため、神経を集中させました。その集中力が持続できたおかげなのか、なんとかペースを落とさず交信できて安心しました。小さなミスがあってもモールス通信を得意とする先輩や先生がフォローしてくださり、心強かったです。

部員で力を合わせ、結果として部門優勝し、7連覇をすることができたことはとてもうれしく、仲間を誇りに思えます。今後、年齢的に高校コンテストに出場できない先輩となっても後輩達へ良いサポートができるよう、さらにスキル上達を目指し、精進していきたいと思えます。



機械工学科3年 宮田 慈生

第59回全国高等専門学校 体育大会に参加して

私は9月7日、8日に旭川で開かれた全国高専大会剣道競技の個人の部と団体の部に参加しました。

初めての全国高専大会では普段感じられない緊張感を味わいましたが、他の高専から多くのことを学ぶことができました。

個人戦では、緊張しながらも自分の持つ力を発揮して戦うことができたと感じました。緒戦から順調に勝ち進むことができました。しかし、準決勝では気持ちの部分で相手に圧倒されてしまった部分があり、悔しくも負けてしまい、3位という結果に終わってしまいました。

一方、団体戦では予選リーグで2試合を行いました。どちらもチーム全体で勝ち切ることができず、予選リーグ敗退に終わってしまいました。私自身も、チームが負けているときに勝って流れを変えることができず、反省点が多く残る結果になってしまいました。

今回の全国大会では、個人として技術や気持ちの面で足りない部分や、団体・チームとして力を合わせることの難しさや重要性を実感しました。

また、日々の生活や練習、大会などで関わって頂いた方々のお陰でこのような貴重な経験をすることができました。心から感謝いたします。

この大会で学べたことや感謝の気持ちを忘れず、来年に向け部員全員で切磋琢磨していきたいです。



～活躍する仲間～

令和6年度 優秀学生賞受賞者一覧

国立高等専門学校機構 理事長一般表彰

国立高等専門学校機構から、全国的な学術雑誌等に
筆頭著者として査読付き論文が掲載された優秀な学生を表彰

環境システム工学専攻2年 田中 ころこ



一般社団法人日本機械学会 畠山賞

大学・短大・高専の機械系学科卒業生で
人格、学業ともに優秀な学生を表彰

機械工学科5年 明石 光克



公益社団法人計測自動制御学会 北陸支部優秀学生賞

大学・短大・高専の機械系学科卒業生で
人格、学業ともに優秀な学生を表彰

機械工学科5年 品川 涼



公益社団法人計測自動制御学会 SICE優秀学生賞

大学・短大・高専の機械系学科卒業生で
人格、学業ともに優秀な学生を表彰

機械工学科5年 高橋 孝太郎



一般社団法人電気学会 北陸支部優秀学生賞

電気学会主催の大会に参加し、
各大学高専から成績優秀な学生を表彰

電気電子工学科5年 虎田 康佑



公益社団法人日本電気技術者協会 北陸支部優良卒業生

高専及び高校の電気科課程の優良卒業生
(就職内定者対象)を表彰

電気電子工学科5年 駒野 真琴



一般社団法人映像情報メディア学会 北陸支部優秀学生賞

各大学高専から成績優秀な学生を表彰

電気電子工学科5年 銚碓 暁文



一般社団法人電子情報通信学会 北陸支部優秀学生賞

電子情報通信関係大学・高専で、
学業と研究業績が優れた学生を表彰

電子情報工学科5年 内山田 湖太



一般社団法人情報処理学会 北陸支部優秀学生賞

情報処理関係の大学及び高専等において、学業成績が
優秀であり、かつ将来の活躍が期待される学生を表彰

電子情報工学科5年 中尾 悠



公益社団法人日本化学会 近畿支部支部長賞

近畿、北陸地区高専の化学系課程の
優良卒業生を表彰(各校2名を上限)

物質工学科5年 池田 葵衣



公益社団法人日本化学会 近畿支部支部長賞

近畿、北陸地区高専の化学系課程の
優良卒業生を表彰(各校2名を上限)

物質工学科5年 高澤 優花



公益社団法人日本分析化学会 中部支部優秀高専学生賞

中部地区高専の分析化学系課程の
優良卒業生を表彰

物質工学科5年 河村 勲士



全国高専土木工学会近藤賞

全国高専土木系学科卒業生で、
人格、学業ともに優れた学生を表彰

環境都市工学科5年 KONGSRI WIRINYA



Special Interview

～活躍する仲間～

令和6年度 ガリレオコンテスト採択結果一覧

学年	学科	代表学生	テーマ	指導教員
3	電子情報工学科	梶 京四朗	バージョン管理のできる小説執筆ツール「Givel」	小越 咲子
5	物質工学科	内藤 結彩	タンパク質凝縮に起因する神経疾患のバクテリアを用いた研究モデルの構築	川村 敏之
1	環境システム工学専攻	増田 悠雅	アロエ化粧水の開発	松野 敏英

令和6年度 ガリレオの卵コンテスト一覧

学年	学科	参加学生	テーマ
1	電子情報工学科	北出 達也	カラスの群
1	電気電子工学科	山田 大樹	最強の迷彩
1	環境都市工学科	津田 莉杏	越前和紙の音響特性
1	電気電子工学科	山崎 長虎	北陸地方における、太陽光発電の研究
1	電子情報工学科	立藏 龍之介	視覚情報と体感はどちらが優先されるのか
1	電気電子工学科	高木 一磨	糊化の作用
1	環境都市工学科	向本 千晴	温泉×植物育成プロジェクト
1	環境都市工学科	増永 沙泉	猫の鼻センサー
1	環境都市工学科	岡本 拓己	ダイラタンシーの靴をつくる

令和6年度 ガリレオコンテスト概要報告

電子情報工学科3年 梶 京四朗

試行錯誤の繰り返し

このプロジェクトでは、どのような方法でアプリケーションを構築するかについて試行錯誤を重ねた。自分自身、本格的なアプリケーション開発は初めてだったので、わからないことだらけの中、必死に勉強しながらプログラムを書いた。

例えば、このプロジェクトではC#という言葉を使うことを選んだが、この選択だけでもかなりの時間がかかった。また使うフレームワークやシステムの設計なども何度も考え直した。

私は内部のロジックを主に作っていたが、あとでそのクラスや関数を使う人(他のプログラマー)が直感的に使えるように、名前の付け方には特に気を使った。また、実装をする中で設計の問

題点がでることがあり、そのときにはまた設計ごと考え直す必要があった。一から全てやり直しになることもあった。

結局、ガリレオコンテストの期間内にアプリケーションを作り切ることではできなかった。とにかく悔しかった。

ガリレオコンテストが終わったあと、全く新しいフレームワークで一からシステムを作り直そうとも考えた。内部のシステムについて、よりよく実装できるアイデアが浮かんだのだ。そのための勉強もした。しかし、まずはこのソフトを完成させるのが大事だと思った。

それからソフトを完成させることができた。半年間取り組んだ分達成感もひとしおだった。

Special Interview

～活躍する仲間～

物質工学科5年 内藤 結彩

タンパク質凝縮に起因する神経疾患の バクテリアを用いた研究モデルの構築

クスノキ由来の Kult 細菌が、銅イオン存在下で沈殿する現象をタンパク質や物質が凝集して起こる疾患のモデルや銅イオンと相互作用する物質や微生物のスクリーニングへ利用するための研究を行いました。身近な植物の抽出物や銅イオンに耐性を持つバクテリアなどを収集したり、試験したりしました。

また、成果を令和6年度の日本動物学会中部支部発表会でポスター発表しました。動物学会のポスター発表では他の学校の学生発表も見学し、様々な分野の面白い研究発表を聞くことができました。また自分の発表では内容を相手に伝えられるか、上

環境システム工学専攻1年 増田 悠雅

アロエ化粧水の開発

みなさんはアロエという植物を知っていますか？アロエは古くから保湿、抗菌、抗炎症などに利用されており、例えば紀元前1,550年頃に書かれた古代エジプト医学書であるエーベルス・パピルスに記載があります。そもそも私たちは人の肌や髪に使う化粧水や整髪料を開発してみたいと思っていました。自分で実際に化粧水や整髪料を作り、肌や髪への影響を調べたいと思いました。そこで、アロエ化粧水の開発に挑戦しました。私たちは8種類のアロエ化粧水を作製して、腕に塗布した後に、専用の装

手く話せるかなど不安なこともありましたが、いざ始めると質疑応答も答えられたので自分の中で自信ができました。しかしガリレオコンテストのポスター発表では発表する相手が審査員であるためか、肅々とした雰囲気と感じてしまったためか、緊張で上手く言葉を紡ぐことが出来ず、相手に伝わりにくい発表になってしまいました。

どれも初めてのことで上手く行くことも、上手く行かないことも多くありましたが、それも良い経験として今後活かしていこうと思います。

置で「肌の水分蒸散量」と「肌の水分量」を測定しました。さらに、一方の腕は1種類の化粧水を30日間塗布し続けて、他方の腕は塗布せずに、両腕の水分状態を比較しました。このような結果、アロエ化粧水を塗布すると、水分蒸散量の減少、水分量の増加が見られました。アロエ化粧水を30日間塗布すると肌の水分量の増加が確認できました。私たちは物質工学科の松野先生に相談しながら今回の研究を進めました。この研究は実践なので試行錯誤の連続でした。実際に企業の化粧品開発で使用されている専用の装置で肌の水分状態を測定できたことは貴重な経験です。今回は「化粧水」でしたが、次は「整髪料」も研究してみたいです。興味がある学生さんは私たちと一緒に研究しましょう！

令和6年度 ガリレオの卵コンテスト概要報告

環境都市工学科1年 増永 沙泉

ガリレオコンテストに参加して

このガリレオの卵コンテストは今回が福井高専で行う第1回目、7月からスタートした。まずは、自分の興味、関心を持つものごとからマインドマップを作り、課題設定を行った。ガリレオの卵コンテストではファシリテーターアワーを行い、相談先として5年生の学生や、先生方から意見をいただきながら活動を進めていった。そして、研究テーマ決めの際には、自分のやりたいこと、知りたいことは何なのか、考えを深めた。中間発表でのミニポスターづくりを経て、実験で起こった問題や研究内容について、最終発表に向けて準備を進めた。そして、最終発表ではショートブ

レゼンと、A0サイズのポスターを使った。実験結果をわかりやすくグラフにまとめたり、写真や図を効果的に使うことで、内容が伝わりやすくなるようにしたりと工夫をした。

私は課題設定や、実験方法、結果のまとめ方が難しく感じた。実験や研究をする期間が短いということもあり、わからないことだらけの研究対象について、いかにピンポイントに焦点を当てて、研究を行うかを特に悩んだ。だが、ガリレオコンテストなどのさらにレベルの高い研究に向けて、良い経験を得ることができた、コンテストであったと思う。

Special Interview

～研修旅行～

研修旅行について

機械工学科3年 鈴木 慧矢

研修旅行に行って

研修旅行での企業見学で学びがあった。

1日目の京セラ株式会社野洲工場様では人工関節の材料や作った後の洗浄のこだわりについてたくさん教えていただき、お客さん(患者さん)のニーズに答えるためにそのお客さんに危害に関わるようなところではその対策を徹底的に努力するべきだということを学んだ。

2日目には川崎重工業株式会社明石工場様に伺い、バイクのエンジンやロボアームなど人と共存していく機械の工夫のすごさに驚きを受けた。

3日目の日本製鉄株式会社九州製鉄所八幡地区では鋼板を巨大な圧延機で圧延している様子に大きな迫力と関心を受けた。そして製品を作る過程で出たごみもリサイクルできるという学びがあった。最後に先輩の交流会では卒業までにとるべき資格やアドバイスをもらった時の対応などについて教えてもらった。

このように今回の研修旅行は今後の進路選びの手助けになる良いきっかけであった。

電気電子工学科3年 白崎 涼太

僕たちの研修旅行

待ちに待った研修旅行、エレベータ会社、家電メーカ、製鉄会社、発電所と多様な業種の会社を訪れて多くのことを学ぶことができました。見学先の会社において、世界に誇れる技術力を、これまでの会社の歴史とこれからの夢を、尊敬すべき信念を実感しました。どの会社も決して礼儀正しいとは言えない僕たちにも丁寧に接してくれ、会社や業務内容について詳しく教えてもらいました。そのおかげで、想像もしなかった未来への可能性が広がったように感じました。この経験は僕たちにとってかけがえのないものとなり、これから進路や将来のことを考えるのに大きな指針となるでしょう。

これまでの学校生活では様々な行事を通してクラスの絆を深めてきましたが、これほど長く一緒に過ごすことは初めてでした。いつも一緒にいるみんなと話したり、あまり話したことのない人に勇気を出して声をかけたりして、意外な一面を知ることができました。いつも静かな人が騒いでいる姿や、いつもふざけている人が真面目になっている姿を見ることができました。

研修旅行が終わった後は各々に分かれて自主研修旅行を行いました。こちらも忘れられない記憶になりました。僕はこの思い出を一生忘れないでしょう。



Special Interview

～研修旅行～

研修旅行について

電子情報工学科3年 前田 隼男

私たちの研修旅行

私たちは福井を出発し、名古屋、静岡、横浜を經由して、東京に向かいました。コロナの影響で中学校の修学旅行がなくなった私たちにとって、今回の研修旅行はとてもワクワクするものでした。

この旅行では、核融合科学研究所、ハウス食品静岡工場、JAL整備工場にて企業見学をさせていただきました。特に、JAL整備工場では、その広さや機械の多さに驚きました。また、整備される飛行機が格納庫に入ってくるころや、飛行機のエンジンなども間近で見ることができました。今までは興味がなかったのに、見学後は飛行機整備や飛行機関連の仕事も面白そうだと感じました。

企業見学以外で強く印象に残っていることは、浅草からクルーズ船に乗りお台場へ行ったことです。お台場に近づくにつれ、大きくてキラキラとした建物が沢山現れ興奮しました。いざショッピングモールに入ると中が広く、迷子になりそうと友達と話していました。そして本当に道に迷ってしまい、夕食場所に着いた時には、皆さんは席についていました。連絡したとはいえ迷惑をかけてしまいました。今となっては良い思い出です。

少しレギュラーなこともありましたが、思い出に残る楽しい研修旅行になりました。



物質工学科3年 秋山 伸司

初体験

まず、担任の先生に一言、旅行の計画を立ててくれてありがとうございます。最高でした。あとは自分の思い出に残った出来事をつらつらと書きます。

まずはディズニーですね。人生初でした。タワーオペレーター待ち時間長いですが行く価値あります。シーにあるハンバーガー売っているお店めっちゃうまいのでごはんの場所におすすめです。次は自主研修旅行1日目の夜ご飯ですね。クラスの男子で焼肉に行きました。大勢で食べるごはんはとても楽しいし、おいしかったです。最後は自主研修旅行中に鞆をなくしたことです。大事なものがたくさん入っていて、静岡まで一人で回収しに行ってきました。東京で遊んで待ってくれていたメンバーには感謝です。あと、茨城にいくなら土浦の星野リゾートがおすすめです、部屋最高でした。

中学ではコロナで県内になってしまったので、この旅行で、初めて関東方面に行けたし、ディズニーにもいけてとても良い体験になりました。



Special Interview

～研修旅行・校外研修～

研修旅行について

環境都市工学科3年 中司 瑞希

研修旅行の思い出

3年生になってからとても楽しみにしていた研修旅行。私たちは関西、九州に行きました。

初日に大阪湾岸道路西伸部の工事を見学しました。国交省の方から工事の説明を聞き、道路の完成イメージをVRで見せていただいた。大きな構造物を造る際の大変さを学びました。夜は大分行きフェリーに乗りました。神戸港を出発するときに池田彩音先生がお見送りに来てくださったことがとても嬉しかったです。2日目には「日本一の高さ」を誇る九重“夢”大吊橋に行きました。渡っているときに下を見て、その高さに圧倒されました。その後、竹田市歴史文化館・由学館に行きました。建築家の隈研吾氏が設計した建物で、外観だけでなく目的に応じた内装にすることが大切だと学びました。3日目は、大観峰で阿蘇市を一望した後、熊本地震震災ミュージアムに行きました。被災の様子や発生メカニズムを職員の方や動画で説明していただいた後、実際に被災した建物や断層を見学しました。

研修旅行で得た多くの知識や新しい経験は、先生や企業の方々の協力のおかげです。私たちは多くの人たちへの感謝を忘れずにこれから進路などの将来のことを考えていきます。



校外研修について

電気電子工学科2年 中西 湊人

校外研修について

私達2年電気電子工学科はパナソニックインダストリー株式会社と、松岡変電所に行きました。福井高専からパナソニックインダストリーまではバスで1時間半かかり、バス内はかなりのぎやかで楽しかった記憶があります。パナソニックインダストリーは主に抵抗などの電気回路に使用される素子を生産していて、僕たち電気科にはとても興味深い会社でした。実際に働いている福井高専の卒業生にも来て頂いて、気軽に質問することもできました。

昼食はゆりの里公園で各自お弁当を食べました。川付近でみんなと話しながら食べたお弁当は良い思い出になりました。そこから30分ほどバスで移動し、松岡変電所に向かいました。松岡変電所では実際に変電所の中を見学させて頂き、自分の将来像を考えるきっかけになりました。この校外研修を通して日々の課題や勉強の活力を多くもらうことができました。



Special Interview

～校外研修～

校外研修について

電子情報工学科2年 中川 絢萌

校外研修の感想

今回の校外研修でjig.jpとオーディオテクニカフクイを見学した。はじめに思ったことは福井県内にもこれほど大きい企業があるのだということだ。福井県内の企業について知ることができて非常によい経験になった。2社両方の社員さんが「自分の興味のあることを挑戦してみしてほしい」という風になっていたことが最も印象に残った。

1社目のjig.jpでは、今授業で使っているJavaScriptなどが実際の事業で使われているということが実感できた。

2社目のオーディオテクニカフクイでは、AV機器の製造をメインで行っているということで普段身近に使っているマイクやヘッドホンなどがどのような環境で試験され、生産されているのかを知ることができた。

2社の見学に行って私がこれから大事にしたいと思ったことは、「流行」「興味」の2つだ。「流行」については、情勢や

技術について知り、自分自身の興味を広げていきたい。「興味」については、自分自身の興味・好奇心を大切に行動していきたい。具体的には、今自身が興味をもっている音響業界について調べたり、電子工作をしてみたりしたい。



令和6年度 第2学年校外研修先一覧

研修日	学科	研修先	引率者
11月13日(水)	機械工学科	ヨシダ工業株式会社	川畑 弥生 橋本 賢樹
		鯖江精機株式会社	
	電気電子工学科	パナソニックインダストリー株式会社	長水 壽寛 山本 幸男
		北陸電力送配電株式会社	
	電子情報工学科	株式会社jig.jp 株式会社オーディオテクニカフクイ	井之上和代 小松 貴大
物質工学科	日東シンコー株式会社	古谷 峻熙 後反 克典	
	レンゴー株式会社金津工場		
環境都市工学科	株式会社道端組	土田 怜 大和 裕也	
	石黒建設株式会社		

Special Interview

～文化体験日～

文化体験日について

F3(電気電子工学科1年) 宮川 陽登

文化体験日

僕のクラスは、文化体験日に「ラポーゼかわだ」を訪れた。そこでの予定は、まず、パンを作るグループとお風呂に入るグループに分かれてそれぞれ楽しむ。その後、全員集合してBBQを楽しむというものだった。

パン作りのグループでは、各々にパン生地が用意されており、それぞれが好きな形に形成したり、好きな具材を入れたりしていた。全員が笑い声を上げながらパンを作っていた。お風呂のグループが風呂につかっていると、他のクラスの人も入ってきて、ずいぶんと騒がしくなった。

このように各々分かれて時間を過ごした後、お昼時のちょうどお腹も空いてきた頃にBBQは始まった。いろんな種類の肉、焼きそばのほかにも、各々でマシュマロを持ってきたり、ポップコーンを持ってきたり、自動販売機にジュースを買いに行く人も居たりと自由にBBQを楽しんだ。時間はたくさんあったのに、過ぎていくのが一瞬に感じた。帰りのバスでは談笑する者やバスに揺られながら眠る者、静かに景色を見て黄昏る者など、様々な過ごし方で帰路を過ごした。



F5(電子情報工学科1年) 山本 昊弥

文化体験日について

F5クラスは、文化体験日に越前町にある泰澄の杜に行きました。1グループ6～9人の6グループに分かれてバーベキューを行いました。

はじめの火おこしが最も難関でした。屋外で行ったので強風で火を付けるのがとても難しく、加えてアウトドアに慣れている人もおらず、どのグループも苦戦していました。火が付いてからは、各グループ内で協力して食材を焼いていました。クラスの友達と一緒に食べて、より一層美味しかったです。

バーベキューの片付けをした後は自由時間でした。泰澄の杜は温泉宿泊施設なので、温泉に入る学生もいれば、バーベキュー場の近くの広場で遊ぶ学生もいました。僕は、友達が持ってきていたカードゲームを皆でやりました。とても楽しくて、あっという間に時間が過ぎました。

文化体験日を通してクラスメイトとより仲を深められた気がします。



Special Interview

～ミニ・ビブリオバトル～

ミニ・ビブリオバトルについて

電気電子工学科5年 銚碕 暁文

ミニ・ビブリオバトルのすすめ

私は今年で二回目となるミニ・ビブリオバトルに参加しました。前回は楽しい経験でしたが、今回は、紹介した本がチャンプ本に選ばれ、さらに充実した時間を過ごすことができました。このイベントは、参加者それぞれが本の魅力を語り、リスナーと意見を交換する場であり、読書の新たな楽しみ方を広げてくれる特別な機会です。

さて、今回紹介した本についてですが、昨年度と趣向を変えて「考古学」の専門書を紹介しました。通常手に取らないような一冊ではありますが、ふとした時に適当なページを開いて読んで見ると、知的好奇心が満たされること間違いなしです。幅広い分野を扱っており、幼少のころに慣れ親しんだ図鑑のように楽しめることでしょう。ギリギリまで悩みましたが、この一冊を紹介できてよかったと思います。

そして、一番の楽しみは他者の語る本の魅力について触れることができることです。新たな分野、新たな本の楽しみ方を知れたり、何より読書友達を見つけることができるかもしれません。私も今回のミニ・ビブリオバトルで読んでみたい分野が一つできました。

「自分の好きなもの」について語る。それを多くの人に聴いてもらえるというのは、とても貴重な経験です、少しでも興味があれば、来年度以降のミニ・ビブリオバトルに是非参加してみてください。そして、少しでも本が好きな人が増えれば幸いです。



学生課情報サービス係

第2回ミニ・ビブリオバトルが 開催されました

令和5年度に初めて開催された本校図書館ミニ・ビブリオバトルの第2回目が、令和6年11月20日(水)に行われました。ミニ・ビブリオバトルは、自分のお気に入りの本や是非読んでほしいと思う本を3分間で紹介し、更に観覧者との質疑応答を通じて、その本が持つ魅力を深掘りして伝え、読書の輪を広げていくことを目的とした取組です。

昨年度は6名の方に紹介していただけたのですが、今年はどうかな……。との心配は杞憂に終わり、何と昨年度を上回る7名(都合により急遽参加できなくなった方も含めると8名)の方から本を紹介したいとの申し出があり、嬉しい誤算となりました。ひとりの紹介者に対する質問は2分間を予定していたところ、観覧者から次々と質問が出され、予定時間を度々超過する等充実したものとなりました。

中には本の紹介にとどまらず、図書館書庫に対する熱い思いを力説される学生もいて、異なる切り口での紹介に意表を突かれる、大変中身の濃いビブリオバトルとなり、大いに盛り上がりました。

新型コロナウイルスが流行した令和2年度に本館の入館者数や本の貸出し者数は大きく減少し、本離れ、図書館離れが危惧されました。令和3年度以降は上向き傾向にあるものの、流行前の水準には戻っていません。そのため、ミニ・ビブリオバトルの開催が図書館の利用拡大に繋がれば良いと考えています。

紙媒体の教科書からタブレット教科書への移行が試みられた国においても、IT先進国のスウェーデンや15歳学力世界トップのシンガポールが紙媒体へ戻す意向を示すなど、紙媒体の図書にはまだまだ有益なところ、存在意義があるのではないかと思います。皆さんも是非図書館へ来て、多くの本に親しんでください。

Special Interview

～退職にあたって～



機械工学科 加藤 寛敬

退職にあたって

私は平成10年7月に福井高専に採用していただきました。その頃の高専は今よりまだゆとりがあったように思います。しかし独法化あたりから高専教員の仕事として、授業、学生指導、研究の他に、地域貢献、外部資金獲得、広報など様々な業務が加わるようになって、忙しさが増したように感じます。どの仕事も奥深く様々な経験をさせていただきました。その中でも「授業が一番大事」という着任した時に教えていただいた言葉を今でも覚えています。また、毎年科研費をいただいたのも有り難く思っています。

いろいろな校務の中で最も思い出深いのは学級担任です。個性豊かな多くの学生さんと関わり合せて感謝しています。担任をした卒業生が本校教員として頑張っていたり、毎年賀状を送ってくれたりして嬉しく思います。

今年度は健康上の理由で仕事を全うできず、残念でなりません。ご迷惑おかけした学生や教職員の皆さまに申し訳なく思っています。

福井高専に着任以来26年9ヶ月という長い間、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



電気電子工学科 濱住 啓之

退職にあたって

福井高専を昭和57年に卒業してから43年。今度は教員として二度目の卒業を迎えることになりました。教職員の皆様、大変お世話になり本当にありがとうございました。

43年前の卒業以降、企業生活36年を経て東京高専の教員に転身。いきなり本科4年生の学級担任。授業準備の傍ら学生のインターンや進路指導に追われ深夜帰宅になる日々が2年。翌年、寮務主事を拝命後まもなく寮のコロナ対策に追われ、寮生と教員のストレスの狭間で奮闘する毎日。

福井高専の教員として赴任したのは今から2年前。鯖江は

自然が美しい。でも雪は厳しい。昔に比べて学生の挨拶が減ってきたように感じるのはコロナ故だろうか。高専時代に学び企業で磨いた電気電子工学、人生経験を交えて伝えようと懸命に教壇に立ってきた。

先日、家内から「人に寄り添えるようになってきた」と言われた。教員生活を通して企業生活では学んで来なかった人間模様を学ばせてもらったのだろうか。そうだ、自分こそ学生に教えられ、学生に育ててもらったんだ！学生諸君、本当にありがとう。



専門職員 石山 隆三

人生を生き抜く知恵

昭和61年4月に福井大学(現福井大学文京キャンパス)に採用されてから、国立若狭湾少年自然の家(現青少年自然の家)、福井工業高等専門学校、福井大学松岡キャンパスで勤務してきました。早いものでこの度定年を迎えることとなりました。皆さんお世話になり、ありがとうございました。長い間勤めていると、いろいろなことがあります。

昔々、とあるお偉い方に呼ばれてお部屋に。入室するやいなや、「この資料間違っているやないか。こんな訳ないやろ!!!ガミガミガミ・・・(激怒)」。そのとき、私には絶対に間違っていないという自信があり、その余裕感が伝わったのか、「こんな数字になるはず、あらへんやろ!何考えてんねん(怒りまくりの2乗)!!!」と大激怒した瞬間、(あれ?ひょっとして間違っているのはワシの方か?無茶苦茶怒ってしまったがな。やばいじゃん)と思われたのか、いきなりニコッ。今まで見せたことのない渾身の笑顔で、「と、ワシは思うんやけど、違うんやろかあな〜。」思わずぶったまげました。(なんちゅう変わり身の早さ。逃げ道作るのうまー。)と妙に感心しました。勘違いして怒るだけ怒ってスッキリ、しかも何事もなかったかのように済ませた人と、全く悪くないのに怒られ損の人。人生ここ一番という窮地のときに、いかに高度なテクで切り抜けるかの重要性を学ばせていただきました。大変勉強になります。

Special Interview

～退職にあたって～



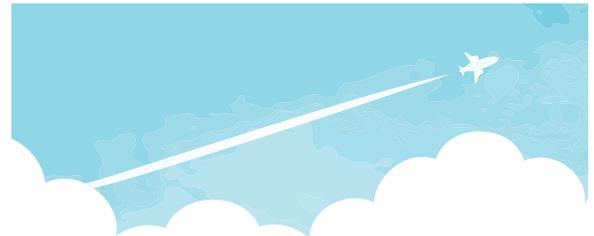
学生生活係主任 寺井 優子

退職にあたって

青武台だよりで「令和とともに第2のスタート」と着任のご挨拶をさせていただいたのが令和元年7月。早くも定年を迎えることになりました。平成最後の日に陸上自衛隊を定年退官し、故郷に戻り次もやりがいのある仕事をと希望したところ、5年程の勤務になるにもかかわらず採用いただき、感謝の念に堪えません。当初は総務・地域連携係として、令和3年度からは学生生活係学寮担当として、いずれの職務でも教職員の皆様に大変お世話になりました。特に学寮では寮生と日々触れ合い、また混住型学生寮竣工に続き東寮改修と、大きな節目となる事業の一端にも携わることができ、大変充実した毎日でした。至らぬこと、わからないことが多々ありましたが、皆様の多大なるご支援・ご指導を賜って職務を全うすることができたと、深く御礼申し上げます。最後に、福井高専の今後益々のご発展と皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。本当にありがとうございました。

面倒に思わず、色々な人とかかわって人脈を築いてください。きっと心の支えになり助けになると思います。

皆様のご健勝と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

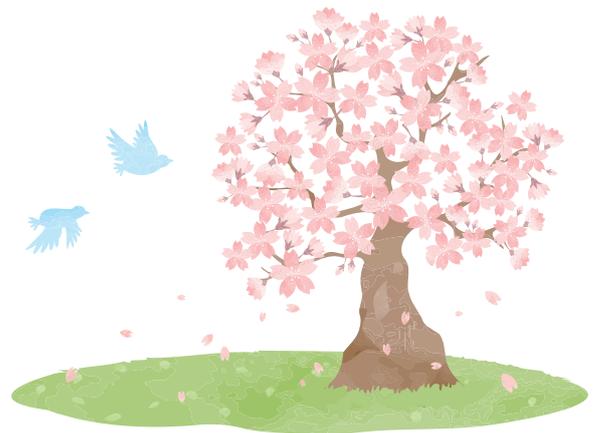


看護師 大西 淑子

いよいよ退職の年となりました

平成17年4月に福井高専に着任し20年の月日が経ちました。この20年間は私にとって「天職かも」と思えたほど充実した日々でした。

私は、様々な怪我や病気で手術を幾度となく経験しましたが、元気に定年を迎えることとなりました。それはひとえに私を支えてくださった教職員の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。私はいつも“人”に恵まれる人生を送らせていただいています。人は一人では何も出来ません。周りの人達とお互い助け合って、支えあって生きていくのが当たり前だと思っています。人の巡り合わせは様々ですが、たまたま巡り合ったご縁を大切に生きてきたように思います。皆様も、色々な場面で色々な人と巡り合うと思いますが、人と接することを



～学校通信～

令和6年度 福井工業高等専門学校 卓越した学生の表彰及び第2回学生表彰受賞者一覧

福井工業高等専門学校卓越した学生

電子情報工学科5年	中尾 悠	環境システム工学専攻2年	田中 ころこ
-----------	------	--------------	--------

校長特別賞

令和6年度青少年健全育成福井県民大会善行青少年知事表彰 環境都市工学科1年(F4)	横井 月美	第35回全国高等学校アマチュア無線コンテスト高校マルチオペレータ 7MHz部門・優勝(団体) アマチュア無線研究会
--	-------	--

第59回全国高等専門学校体育大会(個人)	第59回全国高等専門学校体育大会優勝(団体)
バドミントン部 物質工学科5年 笠松 青夏 女子シングルス 優勝	バドミントン部(女子)
テニス部 物質工学科5年 山内 幸紀 男子シングルス 優勝	
水泳部 電気電子工学科4年 谷口 柊弥 100m自由形 2位	

校長賞

土木学会「第23回木材工学研究発表会」優秀講演者賞 環境システム工学専攻2年 田中 ころこ	日本化学会近畿支部「2024年度北陸地区講演会と研究発表会」優秀ポスター賞 環境システム工学専攻2年 村上 葵
--	--

有機合成化学協会関西支部「2024年度有機合成化学北陸セミナー」優秀発表賞(ポスター賞) 環境システム工学専攻1年 丸山 和香	応用物理学会「第32回次世代先端光科学研究会」若手奨励賞 電気電子工学科5年 師田 創太郎
--	--

第59回北陸地区高等専門学校体育大会優勝及び第60回福井県高等学校新人大会優勝(個人)			
陸上部	物質工学科3年 森下 凌	男子やり投げ 優勝	
	機械工学科2年 酒井 康輔	男子砲丸投 優勝 男子円盤投 優勝(福井県高校新人大会)	
水泳部	電子情報工学科2年 栃木 源次郎	男子走高跳 優勝	
	環境都市工学科5年 佐々木 俊亮	100m平泳ぎ 優勝 4×100mフリーリレー 優勝	
	機械工学科3年 山崎 淳矢	100m背泳ぎ 優勝 200m背泳ぎ 優勝 4×100mメドレーリレー 優勝	
	電気電子工学科3年 本間 詩也	50m自由形 優勝 4×100mフリーリレー 優勝 4×100mメドレーリレー 優勝	
	機械工学科2年 藤井 一楓	100mバタフライ 優勝 200m個人メドレー 優勝	
	機械工学科2年 森 蓮	200m平泳ぎ 優勝 4×100mメドレーリレー 優勝	
	電気電子工学科2年 植田 朔也	4×100mフリーリレー 優勝	
バドミントン部	物質工学科4年 細井 遥和	女子ダブルス 優勝	
剣道部	機械工学科3年 宮田 慈生	男子個人戦 優勝	
卓球部	物質工学科3年 瀧島 友明	男子シングルス 優勝	

第59回北陸地区高等専門学校体育大会優勝(団体)	ロボットコンテスト2024東海北陸地区大会 デザイン賞
サッカー部 バレーボール部(男子) バレーボール部(女子) 剣道部(男子)	福井高専Aチーム

奨励賞

TOEICにおいて成績優秀者			
電気電子工学科4年 木谷 駿允	電気電子工学科4年 齊藤 翼	電気電子工学科4年 宮本 有莉	
電子情報工学科4年 東 凜太郎	電子情報工学科4年 NATSAGDORJ BUYANKHISHIG	物質工学科4年 伊東 汰一	
環境都市工学科4年 松田 岳			

第59回北陸地区高等専門学校体育大会、第60回福井県高等学校新人大会入賞及び令和6年度福井県高等学校春季総合体育大会陸上競技大会(個人)			
陸上部	機械工学科4年 笠原 彰紘	男子走高跳 2位	
	電気電子工学科4年 齊藤 翼	男子110mH 3位	
	電気電子工学科3年 明新 泰河	男子800m 3位	
	物質工学科3年 五十嵐 柚奈	女子800m 2位	
	電子情報工学科2年 高見 涼平	男子400m 3位 男子走高跳8位(福井県高校新人大会)	
バドミントン部	環境都市工学科1年(F2) 播磨 祐吾	男子砲丸投 8位(福井県高校春季大会) 男子砲丸投 7位(福井県高校新人大会)	
	電気電子工学科3年 小野 有史郎	男子シングルス 2位	
	電気電子工学科2年 新井 紫温	女子ダブルス 3位	
	環境都市工学科2年 谷口 結希乃	女子ダブルス 3位	

令和6年度福井県高等学校秋季少林寺大会最優秀賞(組演武)	ふくい海洋ごみアクション選手権 グランプリ
機械工学科2年 藤井 一楓 機械工学科2年 鈴木 智大	物質工学科3年 佐久間 柚季

ふくいソフトウェアコンペティション2024企業賞	第30回北陸の家づくり設計コンペ特別賞
電子情報工学科4年 高橋 楓哉 電子情報工学科4年 渡邊 展匠 電子情報工学科4年 大本 航海	環境都市工学科5年 高間 海友
電子情報工学科4年 高橋 晟那 電子情報工学科4年 佐々木 快	

～学校通信～

部・同好会の紹介

部活動として体育部が18、文化部が8、同好会が12あり、幅広い分野で活発な活動が行われています。



体育部 卓球部

卓球部は現在20名ほどが所属しています。熱心な外部コーチにも支えられながら週5日練習を行い、他高専や高校との練習試合にも積極的です。初心者でも気軽に入部でき、全員がチーム一丸となって活動しています。

指導教員 大和 裕也、山本 幸男、橋本 賢樹



体育部 野球部

野球部は、低学年チームと高学年チームに分かれて活動しています。低学年チームは、春、夏、秋に開催される高校野球の県大会でベスト8以上を目標に、また、高学年チームは全国高専大会上位入賞を目指して、日々、練習を行っています。

指導教員 辻野 和彦、青木 宏樹、木下 若奈、森田 海



体育部 テニス部

テニス部は男子も女子も高専のテニスコートで楽しく活動しています。テニス部には、硬式テニスの経験がある学生さんも初心者の方学生さんもいます。大会を目指して、自分たちで目標を考え、日々の練習に取り組んでいます。

指導教員 松野 敏英、津野 佑規、芹川 由布子



文化部 ロボット部

ロボット部は授業では体験できないロボット作りができます。作りたいロボットを自分で形にでき、機械、プログラム、回路と分野を分けているので、できないことは得意な人に任せて自分の得意な分野で勝負しましょう。

指導教員 亀山 建太郎、千徳 英介、林田 剛一



同好会 プログラミング研究会

プロ研では、放課後の勉強会で実力をつけコンテストにチャレンジしています。今年度はものづくりとAI技術を競うDCON2024本選に4Eより3名で参加し、2つの企業賞を受賞しました。

指導教員 斉藤 徹、青山 義弘、西仁司、小松 貴大



同好会 書道同好会

書道同好会は書道をまったり楽しみたい人にぴったりな部活です！高専祭の展示やコンクールへの応募を中心に活動しています！今年はみんなで書き初め大会をしたいと思います！！

指導教員 山田 哲也

その他の部・同好会一覧

体育部門

- 陸上
- 男子バスケットボール
- 女子バスケットボール
- ラグビー
- サッカー
- バレーボール
- バドミントン
- ソフトテニス
- 剣道
- ハンドボール
- ソフトボール
- 少林寺拳法
- 水泳
- 合気道
- 軟式野球

文化部門

- 英語
- モダンミュージック
- 吹奏楽
- 囲碁・将棋
- アマチュア無線研究会
- 放送・メディア研究会
- 建築構造デザイン

同好会

- 天文
- 茶道
- サイエンスクラブ
- フットサル
- ダンス
- 音鍵研究会
- スポーツクライミング
- 折り紙
- 珈琲
- 書道
- 文芸
- 美術

令和6年度 学校行事写真



第2回校長表彰・校長訓示①



第2回校長表彰・校長訓示②



留学生との懇談会①



留学生との懇談会②



キャリア教育セミナー①



キャリア教育セミナー②



ガリレオコンテスト・卵コンテスト①



ガリレオコンテスト・卵コンテスト②



JOINTフォーラム2024①



JOINTフォーラム2024②



税と社会保障講座



成人年齢引き下げ講座

編集後記

私は着任してからようやく1年が経とうとしています。先日、道路や校庭が一面真っ白になったのには感激しました。

寒い中で学生さんが雪遊びしているのを見て大いに元気付けられました。今回の青武台だよりでは、1年を通しての皆さんの活躍も含め、いろいろな写真が載っていると思うので1年を振り返って思い出してみてください。

編集では大変多くの方々にお世話になりました。末筆ながら心から御礼申し上げます。(野元)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日: 令和7年3月14日

お問い合わせ

福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL: 0778-62-1111